

2025 年下期 IFASS 会議報告

1. はじめに

会計基準設定主体国際フォーラム（International Forum of Accounting Standard Setters：IFASS）は、各法域の基準設定主体並びに会計基準及びサステナビリティ開示基準に関連する諸問題に対する関心の高いその他の組織による非公式のネットワークである。IFASS 会議は、毎年、春と秋の 2 回開催されている。今回の会議は、ロンドンの会場における対面とオンラインのハイブリッド形式で開催された。会議には、各法域の基準設定主体からの代表者に加えて、エフラグ（EFRAG）や地域グループの代表者などが参加した。なお、今回の会議から、オーストラリア会計基準審議会（AASB）議長の Keith Kendall 氏及びカナダ会計基準審議会（AcSB）議長の Armand Capisciolto 氏が共同議長を務めている。企業会計基準委員会（ASBJ）及びサステナビリティ基準委員会（SSBJ）からは、川西 ASBJ 委員長兼 SSBJ 委員長、古内 ASBJ 副委員長、矢野 ASBJ 常勤委員、山口 SSBJ 常勤委員及び衣川 SSBJ 常勤委員が対面で出席した他、一部研究員がオンラインで出席した。

本稿では、本会議の主要なセッションの概要について紹介する。なお、本稿における筆者の意見にわたる部分は、筆者の私見であり所属する団体・組織の公式見解ではないことをあらかじめ申し添える。

2. 全体のスケジュール

今回の会議の議題は、次のとおりであった。なお、表中の「FR」は財務報告に関する議題であることを表し、「SR」はサステナビリティ報告に関する議題であることを表している。

	議 題	担 当
2025 年 9 月 30 日		
1	歓迎の挨拶	Keith Kendall 氏（IFASS 共同議長） Armand Capisciolto 氏（IFASS 共同議長）
2	FR：IASB の作業計画に関連する重要なトピックに関する法域の見解	モデレーター：Katharine Christopoulos 氏（AcSB ディレクター）

	議 題	担 当
	FR（オンライン）：IASB の作業計画に関連する重 要なトピックに関する各法 域の見解	モデレーター：Andrew White 氏（AcSB アソシエイトディレク ター）
	SR：サステナビリティ報告 導入におけるこれまでの教 訓に関する知識共有	モデレーター：Charis Halliday 氏（AASB ディレクター）
3	FR：IFRS 第 17 号 「保険契約」の適用後レ ビューに関する韓国の見 解	モデレーター：Katharine Christopoulos 氏（AcSB ディレク ター） 発表者： ・ Jay Jeong-Hyuk Park 氏（韓国会計基準委員会 （KASB）シニアディレクター） ・ Chun-Ho Lee 氏（KASB テクニカルディレクター） ・ Yelim Seo 氏（KASB テクニカルマネジャー）
	SR：「SASB スタンダー ド」の向上に関する公開 草案の協議 ― 各法域 の産業に焦点を当てた 視点及び包括的な公開 草案の検討状況	モデレーター：Keith Kendall 氏（AASB 議長） 発表者： ・ Wendy Berman 氏（カナダサステナビリティ基準審議会 （CSSB）議長） ・ Sarah-Jayne Dominic 氏（英国財務報告評議会 （FRC）方針、プログラム及び戦略部門長） ・ Nayoung Yoon 氏（KASB 国際関係チーム・リーダー） ・ Bryan Esterly 氏（国際サステナビリティ基準審議会 （ISSB）エグゼクティブ・テクニカル・ディレクター）
2025 年 10 月 1 日		
4	導入	Keith Kendall 氏（IFASS 共同議長） Armand Capisciolto 氏（IFASS 共同議長）
5	報告におけるデータの使 用及び見積り	モデレーター：Charis Halliday 氏（AASB ディレクター） 発表者： ・ Michiel van der Lof 氏（アーンスト・アンド・ヤング（EY）グ ローバルコーポレートレポーティングサービスリーダー） ・ Carolyn Cordery 氏（ニュージーランド会計基準審議会 （NZASB）議長） ・ Sue Lloyd 氏（ISSB 副議長）
6	基準設定におけるキャパ シティ・ビルディング	モデレーター：Charis Halliday 氏（AASB ディレクター） 発表者： ・ Owen Mavengere 氏（パン・アフリカ会計士連盟（PAFA） ディレクター）

	議 題	担 当
		・ Edwin Ng 氏（国際公会計基準審議会（IPSASB）プリンシパル） ・ 川西安喜（ASBJ 委員長）
7	IFASS 事務局アップデート	Charis Halliday 氏（AASB ディレクター） Katharine Christopoulos 氏（AcSB ディレクター）
8	法域のアップデート	モデレーター：Keith Kendall 氏（AASB 議長） 発表者： ・ Chiara Del Prete 氏（エフラグ（EFRAG）サステナビリティ報告テクニカル・エキスパート・グループ議長） ・ Ian Carruthers 氏（IPSASB 議長） ・ Bastian Buck 氏（グローバル・レポーティング・イニシアティブ（GRI）チーフスタンダードオフィサー）
9	報告における利用者の見解	モデレーター：Paul Lee 氏（英国エンドースメント審議会（UKEB）議長） パネリスト： ・ Christopher Bamberry 氏（ピール・ハントのエクイティアナリスト） ・ Jeremy Stuber 氏（英国企業報告利用者フォーラム（CRUF UK）議長） ・ Nicolo Lussana 氏（ナットウェスト・グループのディレクター） ・ Sue Harding 氏（ベイリー・ネットワーク共同創業者）
10	基準設定におけるホライゾン・スキニング	モデレーター：Armand Capisciolto 氏（AcSB 議長） パネリスト： ・ Florian Esterer 氏（国際会計基準審議会（IASB）ボードメンバー） ・ Sue Lloyd 氏（ISSB 副議長） ・ Karen Sanderson 氏（IPSASB テクニカルディレクター） ・ Susan Cospers 氏（米国財務会計基準審議会（FASB）ボードメンバー）
11	閉会挨拶	Keith Kendall 氏（IFASS 共同議長） Armand Capisciolto 氏（IFASS 共同議長）

3. 主な議事概要

(1) IFRS 第 17 号「保険契約」の適用後レビューに関する韓国の見解

本セッションでは、KASB の Jay Jeong-Hyuk Park 氏、Chun-Ho Lee 氏及び Yelim Seo 氏により、韓国における IFRS 第 17 号「保険契約」及び IFRS 第 9 号「金融商品」の同時適用に関する経験と課題について説明が行われた。韓国では 2023 年に両基準が同時に適用となり、保険会計の枠組みが歴史的な原価から市場価値ベースへと大きく転換された。導入初年度には株主資本の増加や透明性の向上といった成果が見られた一方で、利益の急増が実質的な成長ではなく会計の変更によるものであることが判明し、市場に混乱をもたらした。

議論では、①OCI オプションの選択的使用による透明性・比較可能性の低下、②数理上の仮定の柔軟性が過剰であることで操作を行う余地が生まれること、③過去の有配当契約が変動手数料アプローチ（VFA）の適用対象外となるという 3 つの主要な課題が提示された。これらに対し、KASB から①OCI オプションの除去又は制限、②数理上の仮定の設定に関する指針の発行、③VFA の適格要件を経済的実質に焦点を当てるように見直すことなどの提言がなされた。

(2) 「SASB スタンド」の向上に関する公開草案の協議 — 各法域における産業別の見解及び包括的な公開草案の検討

本セッションでは、AASB の Keith Kendall 氏の進行のもと、CSSB の Wendy Berman 氏、FRC の Sarah-Jayne Dominic 氏及び KASB の Nayoung Yoon 氏が登壇し、「SASB スタンド」の向上に関する公開草案（以下「本公開草案」という。）について、各法域の産業に焦点を当てた視点及び包括的な検討状況が説明された。また、ISSB の Bryan Esterly 氏により、本公開草案の開発経緯などについて説明がなされた。

Wendy Berman 氏より、昨今の政治情勢の影響もあり、関係者の意見収集の範囲が限定されているものの、法域の経済に与える影響の程度を踏まえ、金属及び鉱業産業並びに石油及びガス—探査及び生産産業を中心に、関係者との協議を実施したことなどが説明された。

Sarah-Jayne Dominic 氏より、今回が「SASB スタンド」の内容について詳細に検討する初めての機会であり、個別の産業に関する専門性が求められる内容については、関係者とのアウトリーチを通じて理解を深めながら取り組んでいることなどが説明された。

Nayoung Yoon 氏より、「SASB スタンド」の産業分類システムが自国の実情に必ずしも適合していない点について懸念が示されているものの、「SASB スタンド」の向上の方向性については概ね支持が得られていることなどが説明された。

(3) 基準設定におけるキャパシティ・ビルディング

本セッションでは、PAFA の Owen Mavengere 氏、IPSASB の Edwin Ng 氏及び ASBJ 委員長として登壇した川西委員長により、サステナビリティ報告及び財務報告に焦点を当てた、公的セクター及び民間セクターにおけるキャパシティ・ビルディング（基準の採用や実務における運用を行うための利害関係者の能力を構築・向上させること）を探る 3 つのプレゼンテーションが行われた。

Owen Mavengere 氏は、サステナビリティ報告に焦点を当てた、アフリカにおけるキャパシティ・ビルディングの経験について共有し、特に拡張性のある報告のための十分な能力を確保するために設計されたオンラインのプラットフォームの構築について概要を説明した。

Edwin Ng 氏は、公的セクターにおける財務報告のキャパシティ・ビルディングの取り組みについて説明し、政府や公共機関との協働から得られた主要な戦略及び課題について強調した。

川西委員長は、民間セクターにおける財務報告のキャパシティ・ビルディングの取り組みについて説明し、IASB が公表した公開草案が再審議を経て最終基準となるまでの日本での対応プロセスとそれに伴う日本における翻訳の重要性について強調した。

プレゼンテーションの後、本セッションの参加者は 10 のテーブル（1 つのオンライングループを含む）に分かれて様々な法域におけるキャパシティ・ビルディングに関するアプローチについて意見交換を行い、最後にそれぞれのテーブルでの意見交換の概要について会場全体で共有した。

(4) 法域のアップデート

Chiara Del Prete 氏より、EFRAG の活動として、①企業サステナビリティ報告指令（CSRD）のタイムライン及び 2025 年 2 月に公表されたサステナビリティ開示報告に関するオムニバス法案による変更点、②ダブル・マテリアリティの評価プロセスの見直し及び任意のデータ・ポイントの削除等の簡素化の活動、並びに③2024 年 12 月に公表した非上場の中小企業向けの任意のサステナビリティ報告基準（VSME 基準）の内容及び適用促進のためのツール等の開発に関する説明がなされた。

また、Ian Carruthers 氏より、IPSASB の活動として、公的部門のサステナビリティ報告基準の設定主体として、IFRS サステナビリティ開示基準と整合した気候関連開示基準の策定に関する取り組みについて説明がなされた。

さらに、Bastian Buck 氏より、GRI の活動として、「雇用」、「経済的インパクト」及び「汚染」など現在開発を進めている GRI スタダード、並びに他の基準設定主体と共同して取り組んでいるプロジェクトに関する説明がなされた。

4. 次回の予定

次回の IFASS 会議は、2026 年 4 月にオーストラリアのメルボルンで開催される予定である。

以 上